

自彊前進

NO. 16 平成29年1月6日(金)

附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の詞から)



不確かな情報が氾濫する中、私たちは「何が正しくて何がそうでないのか」を見極める確かな判断力を身に付けなければなりません。

3 学期始業式 校長講話

校長 柳沼 宏寿

2017年、新しい年を迎えました。そして、いよいよ三学期が始まりました。この三学期は短い期間ではありますが、それぞれの学年において次への重要なステップとなります。授業や部活動、そして生徒会活動など、一日の学校生活を大切に過ごして行ってほしいと思います。特に1・2年生は「東京班別学習」「台湾の旅」が控えています。社会の第一線で活躍している方々や海外の異文化を持つ人々と触れ合うことによって、自分の視野を広げ、これからの学びに役立ててください。そして3年生は卒業式を迎えます。仲間との触れ合いや先生方との学びの時間を改めてかみしめながら自らの三年間を総括してください。また、新たな人生の関門である高校受験も控えています。持てる力を最大限に発揮すべく気を引き締めて臨んでほしいと思います。

さて、みなさんもお承知のように、昨年を象徴する漢字の第一位は「金」でした。オリンピックが開催された年であったことが最も大きな理由だったようですが、その他の理由として、イギリスのEU離脱やアメリカ大統領選でのドナルド・トランプ氏の当選などによって世界の金融市場が揺るがされ

たことが挙げられています。ところで、このトランプ氏の当選については、第1位の「金」についてはばかりでなく、第2位以降の「選」「変」「震」「驚」「米」という6位まで全ての理由に含まれていました。それだけ世界中の人々に驚きをもたらした出来事だったようです。一方で、オックスフォード大学出版局が昨年を象徴する言葉として選んだのが「ポスト真実(Post-truth)」でした。これは、真実と異なる発言が世の中にまかり通って政治にまで影響を及ぼしてしまっただけで済んだ事態を指します。世界は日々混沌とした様相を呈しており、どうやら2017年は「ポスト真実」がもたらす不安が益々増大していくのではないかと予想されます。したがって、不確かな情報が氾濫する中、私たちは「何が正しくて何がそうでないのか」をしっかりと見極める確かな判断力を身に付けなければなりません。

そのような世界情勢を見るにつけ、私は附属中学校のみなさんに対する期待を膨らませています。二学期の講話でも触れたように、みなさんの学校行事へ取り組みや生徒会での議論は、現代社会の問題に正面から挑戦しているものだからです。ときわ体育祭における全力で戦いつつも相手や見ている人々を配慮した運営、完歩大会で自分のコンディションとバランスをとりながら臨んでいた調整力、演劇発表会でメッセージを届けるために工夫された演出や磨き上げた迫真の演技、音楽のつどいで作り上げた世界でただ一つのハーモニー、そして生徒会の一員として果たしてきたそれぞれの係の役割や自由を巡る議論、この場で全てを言い尽くすことはできませんが、価値観や考え方の違いに直面した時、みなさんは相手の感情や行為を受け止め理解した上で建設的な意見を出し合っていましたね。時には目標を軌道修正し、当初とは全く違った所に着地したこともあったのではないのでしょうか。でも、それが文化を創造するということなのだと思います。

社会学者の丸山孫郎は、複雑化する社会の変化を踏まえた上で、これからの時代の教育は「既存の文化的目標を乗り越える」こと、そして「現在の科学や認識論に挑戦する」ことが必要であると述べています。真実とは異なる情報が飛び交い、答えが一つとは限らない現代社会においては、対話を積み重ねながらの冷静な判断力と常識にとらわれない創造力が求められます。まさにみなさんのような資質を持った人材が求められているのです。

金メダルを目指すことは、大きな夢を抱き自分を奮い立たせる意味で意義のあることですが、それよりも大切なのは目標を達成するまでの過程であって、みなさんが見えないところで積み重ねていた一つ一つの努力にこそ価値があります。この附属新潟中学校での学びは、おそらくみなさんが感じている以上に、みなさん自身にとって、そしてこれからの社会にとってかけがえのない大切な力を培っていると思います。

どうか自分を信じて、そして自信を持って前向きに自分の未来を切り拓いていって下さい。笑顔で有終の美を飾ってくれることを期待しています。